

女性連合役員会・これからの女性連合検討チームより、  
今後に向けての方向性、協議内容の共有

2022年11月15日

「これからの女性連合検討チーム」委員長 吉高 路

女性連合は、日本バプテスト連盟から自主自立して今年度で50周年を迎えました。これまでの歴史を振り返り、先達たちの熱い祈りの中で信徒の自主的な運動体として活動を進めていく事を決断し、引き継がれた「世界宣教」の働きを現、女性連合の重要な活動として踏み出していきました。

全国諸教会、伝道所で推進活動を、ひとり一人がみことばに励まされ、熱意もって進める中に、主イエスが伴い、その歩みを導いてくださいました。そして、「世界宣教」の働きを担う事により、私たちの視点は、自分たちの身近なことだけでなく、世界に向けられ、心が開かれ、多くの気づきと学び、そして、大きな恵みを頂いてきました。

#### <課題>

しかし、『世の光』や「私たちのひろば」でも共有してまいりましたが、少子高齢化、またここ数年のコロナ状況などにより、女性連合の財政の課題が加速し、また時代が大きく変わりゆく社会の中で、女性連合として考えなければならない事柄が迫ってきました。

#### 1、財政

財政については、女性連合会費や『世の光』購読者数が年々大きく（約100人、100冊ずつ）減少しており、活動維持のための資金が減少し続けています。諸活動のもち方や事務所体制について、持続可能な女性連合となるために今後どうしていくか考えなければなりません。

#### 2、性で括る会のあり方

ジェンダー平等や多様性を尊重する社会の流れの中で、ここ数年、様々な教会や場所で「活動を性で分けるあり方はどうなのか」、との声も上がっております。「女性会」「女性連合」の意義は何か、あらためて確認し、多様性を尊重しつつ、どのような形で新たな信徒運動体となっていけるのか、ともに考えていきたいと願います。

#### 3、世界バプテスト祈禱週間

活動の一つとして、私たちが大事にしてきた「世界バプテスト祈禱週間」について、ジェンダー平等の面から、推進を担い続けてきた女性連合が、連盟の「国外伝道」について意思決定に入っていない、という構造的な課題にも気づきを与えられています。現在、連盟と女性連合と一緒に「これからの国外伝道検討委員会」で協議を進めています。

その中で、具体的に上げられてきたのが、「連盟のこれからの国外に関する「中間答申」」です。

#### 〈連盟のこれからの国外に関する「中間答申」〉

「これからの国外伝道検討委員会」では、これまでジェンダー課題があったことを確認し、これからは、連盟と女性連合が対等な関係となって協働して、「今、キリストを証しするため」に、「国際宣教委員会」を設置していこうとしています。

新たな「国外宣教」の働きについて、協議内容をまとめたものが理事会より「中間答申」として出され、現在、連盟のホームページより公開されています。どうぞご確認ください。11月26日(土)13時から15時まで、オンラインでの「みなこれ」で、新たな「国外伝道」中間答申の詳しい説明と懇談の時も開催されます。是非ご参加いただけますよう、ご案内します。

「中間答申」にあげられている、「国際宣教委員会」の具体的活動として、

##### 1, 国内諸教会が取り組む国際宣教

現在、世界中の方々が様々な理由で日本に住んでいます。特に難民、移民、就労、留学など様々な理由で国外から来た方々を支援している教会、英語礼拝などを行なっている教会など、諸教会で取り組まれている「国際宣教」の働きを支援し、諸教会を繋ぐ働きをします。

##### 2, 国際宣教ワーカーへの宣教協力として

多様な形態で教会、関係団体から派遣・支援されている人を支援し、共に宣教協力をしていく。

##### 3, 青少年育成

##### 4, 国際宣教課題の学習、国際交流

が挙げられています。

#### 〈女性連合検討チームで協議、検討されてきた新たな方向性案〉

このように連盟の「国外伝道」の形が変わろうとする中、連盟との関係を大切にしつつも、自主自立した運動体である「女性連合」として、これから何を大事にし、どのように歩んでゆくのかが、この4月から始まった「これからの女性連合検討チーム」で検討を進めてきた方向性「案」を少しご紹介したいと思います。

女性連合は、長きに亘り「世界伝道」を使命として連盟から派遣されている働き人を祈り支え続けてきました。あわせて、これまで日本を含む世界で、弱くされている女性たちを支援する働き、また、子どもたちの命を守るための働きに連なってまいりました。出会いを通して与えられたひとつひとつの課題は、私たちの痛みであり、具体的な祈りとなりました。

これからも世界への視点は、大切にし、私たち自身が世界宣教に参与し、その出会いから学びをいただき、人びととのつながりの中で福音を分かち合い、祈り、励まし合う関係をいただいでいきたいと願います。

#### 〈女性たちが連帯する意味〉

「性で括る活動が続けるのはどうなのか」、との問いがあることはお伝えしましたが、私たちが置かれている日本社会を含め世界を見ましても、依然として女性差別の課題は根深く、私たちも含め、今も女性たちは抑圧されている立場にあると言えます。

誰もが平等で、その人がその人らしく生きることが出来るまでには、まだまだ時間が必要なのではないかと考えます。

私たちは、全国の女性たちと繋がり祈り励まし合い、この世界の差別や不平等の中で（自らを含め）苦しむ人びとの解放を願い、世界、アジアの女性たちとの繋がりの中で、互いにエンパワメントされ、希望をいただいて世界宣教の働きに仕えて行くことを大切にしたいと考えています。

#### 〈セクシャルマイノリティの方がたと〉

セクシャルマイノリティの方がたと、ある意味同じ痛みを持つ者として、一緒に活動していくことも考えていきたいと思っています。このことについては、それぞれの教会でも深め合っていただければと思います。諸教会の多様なあり方を尊重しつつ、神さまが与えて下さった命を喜び、歩める女性連合でありたいと思います。

#### 〈アジア諸国への戦争責任〉

私たちが忘れてはならないこととして、日本が先の大戦で犯したアジア諸国の人びとに対する戦争責任を覚え続け、アジアの人びとと更なる繋がりをいただき、主イエスにあって結び合わされ祈りと対話によって真の和解と平和を目指していきたいと切に願います。

#### 〈財政・組織体制などについて〉

その他、財政の課題がある中で、『世の光』をはじめ、女性連合の活動、また組織体制についてもご一緒に検証、検討しておりますが、財政の課題は、支出を減らす工夫も必要ですが、同時にいかに会員を増やし、収入を増やしていくかの工夫も必要だと思えます。

#### 〈「個人での加入」について〉

また、個別、諸教会にあって「性で括る活動」について話し合いが成され、「会」を無くす教会、また、もともと「会」を作らない教会も見られる中、これまでは「女性会」として女性連合に加盟し活動を進めてきましたが、個人でも加入できる形も必要になってくるのではないかとということも一つのアイデアとして挙がっています。

以上、方向性案についてご紹介させて頂きました。10月に行われた、オンライン議案説明懇談会や信徒大会でも共有させていただきましたが、ご意見や感想、また懸念されることなどもお寄せいただき感謝でした。

#### 〈今後の予定〉

できるだけ早く具体案をつくり、共有しながら、この一年、皆さまと共に考えていき、来年度10月の福岡大会総会では、大筋を提案し協議できることを目指していきたいと考えています。

どうぞ「これからの女性連合検討チーム」を覚え、この働きのためお祈りください。また、感想、アイデアやご意見をお待ちしています。女性連合ホームページか「お問い合わせ欄」からいつでもお送りください。宜しく願いいたします。